



は 30 周年を迎えました。

日本産業洗浄協議会 メールマガジン 第 117 号

メールマガジン第 117 号をお送り致します。

今月は、

(1) トピックス : 【お知らせ】 第 32 回 JICC 洗浄大学 産業洗浄基礎講座開催のお知らせ

(2) 連 載 : 東西対決 「西日暮里駅」 (ペンネーム: NK)

: リレーコラム 「洗浄って? 年金生活者のつぶやき」

(ペンネーム: HMO)

.....

(1) トピックス:

.....

【お知らせ】 第 32 回 JICC 洗浄大学 産業洗浄基礎講座開催のお知らせ

今年 1 月に開催しご好評を頂きました第 31 回 JICC 洗浄大学 産業洗浄中級講座に続きまして第 32 回 JICC 洗浄大学 産業洗浄基礎講座を開催致します。

今回は主に部品洗浄などの産業洗浄に従事されている初心者や新しく産業洗浄の現場でスタートされる方々、これから産業洗浄をめざす洗浄液、洗浄機メーカーと商社の皆様に産業洗浄の基礎をわかりやすく解説するとともに、安全な作業を行う為の注意事項や洗浄剤情報についても紹介いたします。是非お申込みください。

日 時: 2024 年 6 月 21 日 (金) 10:00~17:00

場 所: 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

受講料: 一般 27,500 円/人 JICC 会員 22,000 円/人

定 員: 40 名

締 切: 定員になり次第

詳細は JICC ホームページをご覧ください。

<http://www.jicc.org/>

お申し込みは

http://www.jicc.org/event/univer_form/univer_basic.php



.....
(2) 連載：東西対決 「西日暮里駅」 (ペンネーム：NK)
.....

西日暮里駅



西日暮里駅は線路名称上は東北本線になりますが、運行されているのは京浜東北線、山手線のみで、この2線が停車します。JR 以外では東京メトロの千代田線も停車します。そもそも西日暮里駅設置の経緯は、1960年代頃、当時の帝都高速度交通営団が地下鉄千代田線を建設するにあたり、日暮里近辺に駅を設置することを検討したことによります。その



検討案の中には、現在の JR 日暮里駅に地下通路で接続する案もありましたが、国鉄側が駅間距離、利用予測等を検討した結果、新駅設置が可能との結論を出し、営団、国鉄双方でそれぞれに設置を行うこととなり、現在の場所に西日暮里駅を設置することとなったそうです。

このような経緯もあり、西日暮里-日暮里間は山手線の中で一番、

駅間距離が短い区間

となりました。

西日暮里-日暮里間は 0.5 km しかありません。逆に山手線の中で一番長い所は大崎-品川間で 2 km あり、なんと 4 倍の差があります。かつては品川-田町間が最も長く 2.2 km ありましたが、2020 年に高輪ゲートウェイが開業した為、品川-高輪ゲートウェイ間 0.9 km 高輪ゲートウェイ-田町間が 1.3 km となりました。それでも西日暮里-日暮里間の約 2 倍になります。

最短距離の不動の地位は当面変えられそうにありません。ちなみに次に短いのは神田-秋葉原間、駒込-巣鴨間、新宿-代々木間の各 0.7 km。山手線の平均は 1.15 km です。

次回は「日暮里駅」です。

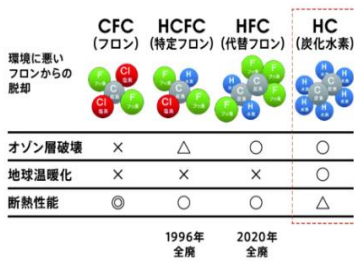
.....

(2) 連載：リレーコラム 「洗浄って？ 年金生活者のつぶやき」 (ペンネーム：HMo)

.....

化学の業界で働いていた。大学で化学を専攻したからだ。縁があり、洗浄の世界と関連するようになった。今は年金生活に入り、毎日が日曜日となった。好きな本を読んだり、音楽の練習をしたり、気ままな時間を過ごしている。産業洗浄協議会の一員として長年付き合ったことについて考えてみた。

洗浄の世界は範囲が広くて、捉えどころがないと感じた。化学の世界では洗浄という概念で現象を捉えることはなく、溶解度の差、分子構造による物体の変化と理解する。水を含んだ雑巾で拭くと綺麗になるのは水が汚れ(無機物など)を溶かして雑巾に吸い込まれるから。洗剤(界面活性剤)は水と油とつきやすい構造体が一つの分子に別々に保有しているからと説明する。きれいにするとはその現象を利用する事と解釈をした。



化学者は分子構造の特性を活かして、フロンと云う物質を開発した。フロンと云う物質は多くの種類があり、種類によって冷暖房の装置に使用されたり、洗浄に利用されたりする。当時、その物質の効果を見た人達は、夢の物質と言って化学者を賞賛した。その効果と人への安全性からだ。それが、今や、フロンは環境を破壊する物質として目の敵にされている。便利と

言ってメチャクチャ使った方が悪いのか、使われた後の事まで考慮しなかった化学者の落ち度かはわからない。時代の変化である。

世の中の洗浄の要求とは「グタグタ理屈などを述べる事をしなくても良い」、「綺麗になれば良い」と云う事で、キレイなのは当たり前、キレイにする事に大金を使いたくないと暗に仄めかしている。現場で汚れや異物に苦勞している人たちは別だが、産業界での洗浄への捉え方はチグハグしている。共通の認識は、「洗浄は必要」という事だけ

であろう。



産業界は、フロンが規制されることにより産業への影響を調査して対策を立てるために作られた協議会である。近年、異業種による集会を宣伝する団体をよく聞くようになったが、30年前に既にできていた。フロン規制は道筋が見えてきたので、産業界は世の中の要求と現実とのギャップを埋めるために色々な活動を始めている。洗浄講座や洗浄工程、機械を見せて洗浄の知識を深めてもらうため

ある。洗浄とはという理論体系もなく、大学の講座でも洗浄を専門に取り扱われることはない。色々な知識を組み合わせて大きな体制(工程)を作り、成果をあげる(結果を出す)事が洗浄の要求である。体系化する組織が必要だ。また、今後さらに注意を払わなければならないこともある。法規制と長期の安全性(人類だけではなく、地球環境に配慮)である。この要求に同業種企業の団体が対応している。物質を作る化学業界も必死になっている。その情報を適切に伝え、その影響を考える団体の役割が大きくなっている。洗浄はどの業界でも必要なものだから。

ガンバレ、産業洗浄協会！

現場を離れた年金生活者のつぶやきでした。

最後までご覧いただきありがとうございました。今後ともご愛顧のほどよろしくお願
い致します。

▼◀配信停止▶をご希望の方は、お手数ですが以下をクリックし、その旨ご記入いた
だき送信下さい。▼

sskjicca@jicc.org

▽お送りしたこのメールは、送信専用ですのでこちらには、返信しないで下さい。▽